

2008年6月30日

自転車を描く品格

大阪カスエネキ - 文化研究所
客員研究員 弘本由香里

梅雨の晴れ間、さわやかな風を
まとった1冊の本が手元に届いた。

『大阪自転車ホリデー』(ワークル
ーム編著、光村推古院刊)という。

海に向かって拓かれてきた大
阪のまちは平地が多く、都心部か
ら周辺の住宅地に至るまで、自転
車人口密度はすこぶる高い。けれ
ども、まちなかの施設やルールが
自転車向けに整備されているかと
いうと、そうでもない。あちこち
で、歩行者・自動車と自転車のト
ラブルが多発して困っているのも
事実だ。

交通マナーの悪さといえば、大
阪の代名詞とされがちである。と
ころが、その代名詞をさりげなく
返上するかのよう、しなやかに
背の通った自転車とまちの付き合
い方を教えてくれるのが『大阪自
転車ホリデー』である。

走りのルールと大阪ならではの
街の道路事情を入りに、郊外
の滝や海まで遠乗りの「おでかけ
自転車コース」、市内の近代建築や
渡船などテーマ別の「おさんぽ自
転車コース」、走りやすい筋・通を
軸に買い物を楽しむ「じぐざぐ街
乗りルート」へと続く。便利な駐
輪スポットやレンタサイクル、サ

イクルショップの情報もある。
作法に則って、人と自転車がと
もに描く軌跡は美しく、線上に広
がる大阪のまちは、思いがけぬほ
ど端正な品格を漂わせてくれる。